



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年2月10日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
 コード番号 6425 URL http://www.universal-777.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富士本 淳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 根岸 良直 TEL 03-5530-3055
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	90,630	48.0	27,436	242.0	23,285	415.2	14,980	330.9
28年3月期第3四半期	61,222	30.2	8,023	2.7	4,519	△47.6	3,476	88.5

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 △28,020百万円 (-%) 28年3月期第3四半期 △62百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	204.14	204.03
28年3月期第3四半期	47.38	47.37

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	479,867	201,603	41.9	2,737.16
28年3月期	369,580	229,072	61.7	3,108.92

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 200,862百万円 28年3月期 228,143百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
29年3月期	-	0.00	-	-	-
29年3月期(予想)	-	-	-	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日公表の「期末配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	30.8	30,000	77.6	30,000	34.3	20,000	27.7	272.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	80,195,000株	28年3月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	6,811,232株	28年3月期	6,811,232株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	73,383,768株	28年3月期3Q	73,383,821株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続きは終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(4) 追加情報	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

平成29年3月期 第3四半期累計	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益
個別（百万円）	93,899	32,774	21,725	14,109
連結（百万円）	90,630	27,436	23,285	14,980

当第3四半期連結累計期間における売上高は90,630百万円（前年同期比 48.0%増）、営業利益は27,436百万円（前年同期比 242.0%増）、経常利益は23,285百万円（前年同期比 415.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は14,980百万円（前年同期比 330.9%増）となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下の通りです。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

①パチスロ・パチンコ事業

当第3四半期連結累計期間におけるパチスロ・パチンコ事業の売上高は88,240百万円（前年同期比 50.5%増）、営業利益は39,969百万円（前年同期比 114.6%増）となりました。

当期におきましては、いわゆる「パチンコ釘問題」によるパチンコ機の撤去期限を平成28年12月末に迎えました。多くの顧客がその対応に追われ、業界全体が非常に厳しい状況となる中、当社はパチスロ機販売において好調に推移いたしました。

パチスロ機においては、以下のタイトルを市場投入いたしました。“リバイバル”をテーマとした「A PROJECT」の第7弾となる『クランキーセレブレーション』、また導入から3年を経過した現在においても圧倒的な人気を維持している『バジリスク～甲賀忍法帖～』シリーズの最新機『バジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ』の計2タイトルです。

②その他

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は2,397百万円（前年同期比 8.0%減）、営業損失は4,864百万円（前年同期 営業損失2,962百万円）となりました。

メディアコンテンツ事業においては、パチスロ機『SLOT魔法少女まどか☆マギカ2』のシミュレーターアプリをApp Store、Google Play及び会員制モバイルサイト「ユニバ王国」にて、また『SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ』のシミュレーターアプリをApp Store、Google Playにて配信いたしました。両タイトルはApp Store、Google Playランキングでも上位を維持し、好評をいただいております。

また、パチスロ機『沖ドキ!』のシミュレーターアプリをauスマートパス・docomoスゴ得にて配信を開始いたしました。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV!」を運営する日本アミューズメント放送株式会社の放送事業においては、10月から新番組を開始、また12月には年末特番の配信を行いました。「パチテレ! NETプレミアム」のコース内容をリニューアルして以来、加入件数が伸びております。また、コンテンツ配信事業においても昨年度開始したコンテンツの売上が伸びております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産の額は、現金及び預金が64,275百万円、建設仮勘定が57,405百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が2,628百万円、商品及び製品が2,662百万円、投資有価証券が9,942百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ110,287百万円増加の479,867百万円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の額は、未払金が3,940百万円、社債が76,850百万円、長期借入金が66,476百万円増加したこと、支払手形及び買掛金が7,029百万円、短期借入金が3,769百万円減少したことなどにより、連結会計年度末に比べ137,756百万円増加し、278,264百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の額は、利益剰余金が15,505百万円増加したこと、為替換算調整勘定が42,757百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ27,468百万円減少の201,603百万円となりました。

この結果、自己資本比率は41.9%（前連結会計年度末は61.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①パチスロ・パチンコ事業

第4四半期においては、引き続き、パチスロ・パチンコ業界の自主規制等によるホールの業況悪化など、様々な市場への影響が懸念されております。

当社は、かかる状況下でホールの収益に貢献できるよう、「新規客を集客させる」を販売方針とし、パチスロ・パチンコの販売を行ってまいります。

パチスロ機においては、ゲーム開発・販売大手「スクウェア・エニックス」の大作RPG（ロールプレイングゲーム）とコラボレーションした『SLOTスターオーシャン4』、業界初のプロジェクトマッピング機能を搭載したパチスロ機の第2弾となる『アナザーゴッドポセイドン-海皇の参戦-』の販売を予定しております。

パチンコ機においては、人気TVアニメ「えとたま」のタイアップ機種『CRえとたま』のスペック変更機『CRAえとたま79ver.』の販売を予定しております。

②その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き、ユーザーへ高品質なシミュレーターアプリを提供できるよう研究開発を進めてまいります。また、会員制モバイルサイト「ユニバ王国」においては、アプリコンテンツ及び追加機能を続々と投入し、今後もユーザーに長く遊んでいただけるサイト運営を行ってまいります。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV！」を運営する日本アミューズメント放送株式会社においては、2月から3月にかけて特番編成を予定しております。また、既存の放送並びにコンテンツ配信の強化を行い、ユーザーにより一層お楽しみいただける番組制作を行ってまいります。

世界最大級の総合リゾートである、OKADA MANILA は、12月21日にフィリピンのアミューズメント・アンド・ゲーミング・コーポレーション(PAGCOR)から、カジノ運営開始の承認を得たことにより、12月30日19時より正式にカジノ運営を開始しました。今後グランドオープンに向けVIPカジノフロアー、レストラン、世界トップクラスの噴水施設等の完成を急いで進めてまいりましたが、この度平成29年3月末にグランドオープンする計画となったことをお知らせいたします。当社は連結決算においては海外子会社を四半期ずれて連結している為、本格的に連結決算に反映するのは来期からとなります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	52,280	116,555
受取手形及び売掛金	13,842	11,214
有価証券	14	11
商品及び製品	4,994	2,331
仕掛品	15,141	16,064
原材料及び貯蔵品	23,926	23,104
その他	9,450	10,379
貸倒引当金	△7	△6
流動資産合計	119,643	179,655
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,330	7,099
建設仮勘定	117,158	174,564
その他	21,047	22,314
有形固定資産合計	145,536	203,978
無形固定資産		
その他	1,965	2,034
無形固定資産合計	1,965	2,034
投資その他の資産		
投資有価証券	61,376	51,434
長期預け金	6,999	7,122
関係会社長期預け金	30,034	29,363
その他	4,932	4,506
貸倒引当金	△2,840	△1,030
投資その他の資産合計	100,502	91,396
固定資産合計	248,004	297,409
繰延資産	1,932	2,802
資産合計	369,580	479,867

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,566	15,537
短期借入金	14,274	10,505
未払金	13,854	17,795
未払法人税等	6,020	6,444
賞与引当金	270	79
その他	4,699	7,641
流動負債合計	61,686	58,002
固定負債		
社債	70,588	147,438
長期借入金	—	66,476
その他	8,233	6,347
固定負債合計	78,821	220,262
負債合計	140,507	278,264
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	10,852	10,852
利益剰余金	217,673	233,178
自己株式	△14,296	△14,296
株主資本合計	214,326	229,831
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△577	△606
為替換算調整勘定	14,395	△28,362
その他の包括利益累計額合計	13,817	△28,968
新株予約権	73	99
非支配株主持分	854	640
純資産合計	229,072	201,603
負債純資産合計	369,580	479,867

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	61,222	90,630
売上原価	30,442	37,010
売上総利益	30,780	53,620
販売費及び一般管理費	22,757	26,184
営業利益	8,023	27,436
営業外収益		
受取利息	47	74
受取配当金	271	13
その他	47	90
営業外収益合計	366	178
営業外費用		
支払利息	419	247
支払手数料	140	120
為替差損	2,235	3,657
売上割引	102	21
持分法による投資損失	955	185
その他	14	97
営業外費用合計	3,869	4,329
経常利益	4,519	23,285
特別利益		
固定資産売却益	5	6
子会社清算益	1,821	—
その他	7	—
特別利益合計	1,835	6
特別損失		
固定資産除却損	12	9
関係会社事業損失	—	268
特別損失合計	12	277
税金等調整前四半期純利益	6,342	23,013
法人税、住民税及び事業税	2,755	9,496
法人税等調整額	454	△1,248
法人税等合計	3,209	8,247
四半期純利益	3,132	14,766
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△344	△214
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,476	14,980

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	3,132	14,766
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△327	△28
為替換算調整勘定	△2,868	△42,757
その他の包括利益合計	△3,195	△42,786
四半期包括利益	△62	△28,020
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	281	△27,806
非支配株主に係る四半期包括利益	△344	△214

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この償却方法の変更による影響は軽微であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(訴訟)

Wynn Resorts, Limited (NASDAQ: WYNN, 以下「ウィン・リゾート社」)との民事訴訟に関しては、現在ディスカバリー及び証言録取等の証拠開示手続き中であり、今後、トライアルにおいて証人尋問等を経て判決に至るといふ過程となります。この判決結果により発生する可能性のある当社及び連結子会社等からなる企業集団の特定期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響を確実に見積もることが困難である事実を踏まえ、平成25年3月期連結会計年度末よりウィン・リゾート社株式を取得原価で評価しております。

ウィン・リゾート社が発行した長期受取手形に対する受取利息として、これまでに4年分(1年あたり38,728,852.63ドル)が裁判所の事務官宛てに、同事務官の信託口座への預け入れ用として発行されました。しかしながら、請求権の原則に基づいて当社グループに帰属しないと判断されることから当該小切手の受取利息を会計上も税務上も認識する必要はないこととなる可能性が高いと判断され、当社連結財務諸表には利息付小切手発行に係る事実を反映させておりません。

なお、当社は、平成27年2月に、アルゼUSA等と共に、マカオ特別行政区第一審裁判所において、Wynn Resorts (Macao) S.A.及びスティーブ・ウィン氏ら同社取締役4名を相手として、同社の解散及び約80億マカオパタカの損害賠償等を請求する民事訴訟を提起しており、現在当該訴訟が係属中です。

(借入費用の取得価額算入)

カジノリゾート事業に要した資金のうち、その建設資金を借入金及び社債(私募債)により調達している長期プロジェクトで、かつ、その金額が重要なものについては、建設期間中に対応する借入費用を取得価額に算入しております。

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。